

関連科目、教科書および補助教材	
関連科目	財務会計論Ⅰ・Ⅱ、会計学特論
教科書	会社はこれからどうなるのか(岩井克人, 平凡社)ほか
補助教材等	プリント
学習上の留意点	
<p>講義は、輪読、プレゼンテーション方式で実施する。発表する学生は、毎回、パワーポイントを作成すること。学生は、毎回、授業に出席する際は、その回で学習する分野の事前学習をしておくこと。自分の発表担当以外の個所もしっかりテキストを読み準備をしておくこと。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>専門科目に入ると、初めて聞く内容が増えてきて理解するのも大変になります。この講座では、教科書に出てくる難解な内容をできるだけかみくだいて説明したり、身の回りの具体的なものに例えて説明することを心がけて授業を行う予定です。進む進度もすこしゆっくりめに設定しています。</p>	

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	0 ガイダンス 1 監査の必要性 2 監査全体の流れ 3 監査基準	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。 ・法定監査制度の説明ができる。 ・監査業務の全体像を理解できる。 ・監査の必要性を理解できる。 ・財務諸表監査の機能と限界が理解できる。 ・監査基準の内容を説明できる。 	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
2			
3			
4			
5	4 リスク・アプローチ監査 5 内部統制 6 監査計	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク・アプローチの考え方を理解できる。 ・監査リスクと監査上の重要性の関係について説明できる。 ・内部統制の構造について説明できる。 ・監査計画について説明できる。 	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
6			
7			
8	7 監査の実施 8 監査結果の報告 9 監査の品質管理	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク対応手続きについて理解できる。 ・監査調書について内容が理解できる。 ・監査報告書の記載内容について理解できる。 ・監査業務の質を合理的に確保するための取り組みについて説明できる。 	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
9			
10			
11	10 内部統制監査 11 公監査 12 監査の周辺業務	<ul style="list-style-type: none"> ・内部統制監査の意義と目的を理解できる。 ・四半期レビューと保証業務について理解できる。 ・公的組織が受けている監査の概要を理解できる。 	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
12			
13			
14			
	学年末試験		
15	答案返却・解答解説 全体の学習事項のまとめ 授業改善アンケートの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・試験問題の解説を通じて、間違った箇所を理解できる。 ・全体の学習事項のまとめが理解できる。 	
総学習時間数			90 時間
講義			30 時間
自学自習			60 時間